経営協議会議事要録

１　日　付　２０２６年6月１２日（金）
２　場　所　ステーションコンファレンス東京６０２会議室（及びＷｅｂ会議）
３　出席者
（学内委員）
冨永総長
青木　滝澤　杉本　植木　山口　張替　湯上　山下　遠山　各理事
ファブル副学長
谷口副理事
（学外委員）
大谷　小野寺　小林　小松　佐々木　蓼沼　樋口　廣江　渡邉　正宗
呉　正宗　ダッシャー　各委員
（陪席）
福田　田口　各監事
亀井　小田中　今村　片桐　田中　伊豆　各副学長
小嶋　石井　高村　佐々木　各総長補佐
（本部事務機構等）
阿部事務機構長　木村総務企画部長　乳井国際連携部長
芳賀人事企画部長　木村財務部長　工藤総務課長
４　欠席者
（学外委員）
大津　ビール　各委員
５　議　事

○　前回経営協議会（２０２６年３月２３日）議事要録（案）の確認

議長から資料に基づき、上記議事要録（案）の可否について諮り、これを承認した。

○　議　事

議長から、２０２６年３月以降の本学における活動状況について報告があった。

（１）2025年度決算

議長から、本議題については副学長（経営基盤強化・財務管理担当）から説明する旨の発言があり、伊豆副学長から資料に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。なお、学外委員からあった意見の概要は次のとおり。

・共同研究や受託研究は本学にとって極めて重要な取り組みであるため、それぞれの研究に関して大学が保有する資産の評価が適正に反映されるよう社会に対する
取り組みを進め、より持続的な資金獲得につなげていくべきである。

（２）2025年度資金運用報告

議長から、本議題については副学長（経営基盤強化・財務管理担当）から説明する旨の発言があり、伊豆副学長から資料に基づき説明があり、これを確認した。

（３）第４期４年目終了時評価における達成状況報告書・業務実績報告書の提出

青木理事から資料に基づき、第４期４年目終了時評価における達成状況報告書・業務実績報告書の提出について説明があり、審議の結果、これを承認した。なお、学外委員からあった意見の概要は次のとおり。

・大学に関する多層的な評価が存在するところ、国際卓越研究大学研究等体制強化計画を活動の中心点に据えるべきであり、その認可前に策定された第4期中期計画との間で生じる業務負担に対しては、工夫して学内の時間的・人的コストの最小化を図られたい。また、第5期中期目標・中期計画の策定は、研究等体制強化計画に沿って行われるのがいいものと考える。
・各種報告書の作成は評価・モニタリング上必要なものであるが、単なる報告のための作業に終わらせず、学内の課題抽出や改革につなげるPDCAサイクルとして組織内で機能させることが重要である。今回の報告内容から、組織内で目的の共有化が行われ、それが短期間での進化に繋がっていると思われることから、今回のコンパクトな説明資料も学内で広く共有して組織のベクトルを合わせるツールとして活用することを期待する。

（４）役員の期末特別手当及び前役員に対する退職手当の業績反映

山下理事から資料に基づき、役員の期末特別手当及び前役員に対する退職手当の業績反映について説明があり、審議の結果、これを承認した。

（５）THVP-3号投資事業有限責任組合への出資

遠山理事から資料に基づき、THVP-3号投資事業有限責任組合への出資について説明があり、これを確認した。なお、学外委員からあった意見の概要は次のとおり。

・スタートアップへの投資後は単なる市場投入にとどまらず、東北地域とのビジネスや共同開発における連携を継続・強化していくことが重要である。互いの強みを活かした相乗効果を生み出すことで、より大きなレ

バレッジを効かせ、着実な成長を後押しする仕組みを構築すべきである。
・共同研究等から派生したスタートアップへの投資選定プロセスにおける透明性の確保が不可欠である。特定の案件に対する偏向や優遇が生まれないよう、すべての投資案件を平等に評価・選定するための明確な手続きやルールを整備すべきである。

（６）包括的国際化戦略

ファブル副学長から資料に基づき、包括的国際化戦略について説明があり、これを確認した。なお、学外委員からあった意見の概要は次のとおり。

・日本の学術研究や教育の国際的地位が著しく低下している中、国際卓越研究大学に選定された東北大学は世界に向けて「特定の強みにおいて国際的にリードしている」と示せるような、明確なビジョンと発信力を期待する。
・学部と大学院毎、特に大学院（博士課程）レベルの取り組みを強化すべきであり博士号取得のために選ばれる大学となるよう、大学院レベルに特化した支援など、戦略的アプローチを期待する。
・国際化の推進にあたっては、限られたリソースと時間を最大限に活かすため「選択と集中」が不可欠である。明確なターゲット設定により優先施策を絞り込むとともに、具体的な時間軸を定めて戦略的に達成を目指すべきである。
・従来の先進国主導の関係維持にとどまらず、「グローバル・サウス」に焦点を当てて新たな関係性を構築する姿勢は、本学ならではの際立った進化であり非常に有益な取り組みとして高く評価したい。

（７）国際卓越研究大学：体制強化計画の進捗状況

１）国際卓越研究大学に関する年度報告

青木理事から資料に基づき、国際卓越研究大学に関する年度報告について説明があり、審議の結果、これを承認した。なお、学外委員からあった意見の概要は次のとおり。

・国際卓越研究大学としての取り組みは非常に順調であるが、数年先の見直しも見据え、他の国際卓越研究大学等とも協議・連携しながら、日本全体の教育改革において何をなすべきかという大局的な視点から、時間をかけて検討を進めていただきたい。

２）2026年度法人戦略予算

議長から、本議題については副学長（経営基盤強化・財務管理担当）から説明する旨の発言があり、伊豆副学長から資料に基づき説明があり、審議の結果、

これを承認した。なお、学外委員からあった意見の概要は次のとおり。

・東北大学が世界をリードし続けるためにも、優れた人材が定着するように、「国際卓越研究者」としての処遇向上や手当支給などの相応のインセンティブ等の環境整備を確実に進めていくことが極めて重要である。
・東北、仙台に位置する大学としての役割も重視し、これまでの取り組みを継続しつつ、地域社会との連携や地元企業に対する様々な支援・共創活動にも一層力を入れて取り組んでいただきたい。

（８）その他

１）総長選考・監察会議委員の選出

議長から資料に基づき、総長選考・監察会議委員の選出について説明があり、これを確認した。なお、本経営協議会終了後に実施する総長選考・監察会議学外委員候補者選出委員会の進行は、総長選考・監察会議の前議長を務めていた小野寺委員が務めることとなった。

以　上